|  |  |
| --- | --- |
| 分野名 | 会計分野 |
| 目　標 | １　財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。  ２　企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。  ３　会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間数 | 学習活動 | 指導の留意点及び到達目標 |
| ２時間 | 【ＳＤＧｓとSociety5.0の理解】  ・講義（１時間）  ワークシートを配付し、ＳＤＧｓとSociety5.0の講義を行い、基礎学習においてＳＤＧｓの17の目標とSociety5.0との共通点・相違点について調べる。  ・グループワーク（１時間）  ４～５人グループに分かれ、基礎学習をもとにグループでの意見共有を行う。状況に応じて全体意見共有も行うと深い学びとなる。 | ・ＳＤＧｓとSociety5.0、ＥＳＧ投資の意味を理解し、共通点・相違点を明確に説明することができる。  ・ＳＤＧｓの目標達成のために、個人的な視点、企業としての視点の両面からビジネスについて創造することができる。  ・ＥＳＧ投資について理解し、現在、企業が行っている取組を参考にし、企業の社会的価値と長期的な両立を図るためのアイデアを創出することができる。 |
| ２時間 | 【クラウドファンディングから考える資金調達】  ・講義、事前課題（１時間）  　ワークシートを配付し、クラウドファンディングについて講義を行う。その後、個人学習を行う。  ・グループワーク（１時間）  ４～５人グループに分かれ、グループでの意見共有を行う。最後に５（３）について各グループから発表させ、全ての発表を聞いた後、個人での最終的な意思決定を行う。 | ・クラウドファンディングや資金調達方法など、複数の方法についてのメリットやデメリットを整理し、それぞれの特徴から資金調達の意思決定を行わせる。  ・クラウドファンディングの成功事例・失敗事例から成功する要因について見いだすことができる。  ・資金調達方法の違いによるメリット・デメリットを整理し、根拠を明確にして意思決定をすることができる。また、他者の意見から自己の考えを見直し、最終的な意思決定をすることができる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間数 | 学習活動 | 指導の留意点及び到達目標 |
| ２時間 | 【リースとレンタルどちらが得？】  ・講義及びケースメソッド（１時間）  　リース取引とレンタルの意味や違いについて理解する。また、ケースメソッドを通じて、経済的視点からリースとレンタルを比較し、その違いを理解する。  ・グループワーク（１時間）  　４～５人グループに分かれ、プロコンリストを用いて、幅広い視点からリースとレンタルを比較し、前時に比較した経済的視点も含め、根拠をもって意思決定する。最終的な意思決定については全体意見共有を行う。 | ・ケースメソッドでは非現金支出費用の節税効果について理解させる。  ・講義の中ではリースとレンタルの定義を行い、まとめを行うこと。また、それぞれのメリットとデメリットについて考察させる。  ・ビジネスフレークワークとしてメリットとデメリットをまとめるプロコンリストを作成し、リースとレンタルについて思考を深めさせる。  ・リースとレンタルの会計的処理を身に付ける。  ・ケース教材の内容から判断に必要な数値を算出し、経済的視点から意思決定することができる。 |
| ２時間 | 【無形固定資産（のれん）償却】  ・講義、事前課題（１時間）  ワークシートを配付し、無形固定資産の意味と種類について講義を行う。その中でも特にのれんの計上方法について詳しく説明を行う。また、サッカークラブでは選手登録権が無形固定資産として計上されることにも触れる。  ケースメソッド教材を配付し、事前アサインメントに取り組ませる。ＩＦＲＳ（国際会計基準）と日本会計基準ののれん償却の違いを考えさせるように授業を進めていく。  ・ケースメソッド（１時間）  　ケースメソッドを実施し、グループ（10分）と全体（40分）で意見共有を行う。その後、振り返りシートの記入をさせる。 | ・ＩＦＲＳ（国際会計基準）と日本会計基準ののれん償却の違いを考えさせるように授業を進めていく。  ・減損損失は日商簿記１級の範囲であるが、日本会計基準と国際会計基準の違いを説明する上では必須の知識なので、発展した学習ではあるが、減損損失について資料を用いて説明する。  ・のれんの会計処理に関する基礎的な知識を身に付けている。  ・日本会計基準と国際会計基準ののれんの償却方法の違いを理解している。  ・日本会計基準と国際会計基準ののれんの扱いについて多面的に理解し、さまざまな角度からのれんについて探究し、自らの意思決定を行うことができる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間数 | 学習活動 | 指導の留意点及び到達目標 |
| ４時間 | 【どの会社の株を買う？】  ・講義とグループワーク（２時間）  　ワークシートを受け取り、財務諸表（有価証券報告書）の見方の講義を受け、トヨタ、日産、本田の３社の経営分析を個人で行う。  ・グループワーク（１時間）  　４～５人グループに分かれ、個人で行った経営分析について、グループ内で発表しまとめを行う。どの会社の株を買うのか問題解決する方法を体験する。  ・マイクロディベート（orグループワーク）（１時間）  　３社の中からグループで主張する会社を選び、簡易的なディベート（orグループワーク）を実施する。ディベートの後に、振り返りシートの記入を行う。 | ・有価証券報告書を用いた企業分析を行い、どの会社の株を買い、投資するかについて考察させる。  ・トヨタ、日産、本田の３社の2023年から2024年のデータを収益性、効率性、安全性、成長性に着目し、会計的側面から企業を分析する力を養うことを目標とする。  ・グループ全員で協力して、情報共有を行い、協働的に取り組む態度を身に付けさせる。  ・他者の意見からどこの会社の株を買ったほうが良いか、多面的・多角的に考察させる。  ・肯定側と否定側に分かれ、立論、反論、まとめを行う。  ・マイクロディベートに参加していない生徒で審判（ジャッジ）を行う。問題解決に向けて主体的に取り組む態度を養うことを目標とする。 |
| ４時間 | 【ビジネスプレゼンテーション】  ・プレゼンテーションの準備（３時間）  　ワークシートを用いて、環境会計について講義を受ける。企業の財務諸表を調べながら、プレゼンの準備を行う。  ・プレゼンテーションの実践（１時間）  企業の環境会計についての取り組みをまとめ、プレゼンテーションを実施する。振り返りシートの記入を行う | ・環境会計の意味と導入するメリットを理解させる。  ・環境会計を導入するメリットを理解し、ＳＤＧｓやＥＳＧにかかわる手法として、会計的側面から企業を分析する力を身に付けさせる。  ・発表会を通じて、新たな課題を発見し、それを次の学びに活かすことの重要性を理解させる。  ・振り返りシートの記入から問題解決に向けて主体的に取り組む態度を育成することを目標とする。 |